

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	レインボー・キッズ・クラブ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 4日		～ 2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 4日		～ 2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団活動と個別活動を取り入れることで幅広い支援ができること。	運動、絵本の読み聞かせ、リトミック、個別療育(個々に合わせた机上活動)を組み合わせることで1時間のプログラムにしている。『動』と『静』の活動を切り替えることで集中力を持続させながら楽しく様々な経験ができるようにしている。	活動のプログラムに季節や行事を取り入れたりお子さまの発達や特性に合わせた内容にしたりしながら、飽きずに楽しい療育が行えるように努めていく。
2	午後利用のお子さまには、グルテンフリーの手作りおやつを提供している。	季節や行事を大切にしながら、健康にも配慮したグルテンフリーの手作りおやつを提供している。器や形にもこだわり、見た目もかわいらしく美味しい。おかずおやつでは野菜も楽しく食べられる工夫をしている。	お子さまたちがより楽しく安心して食べられるように、栄養や見た目、食べやすさにも配慮しながら継続的にメニューの工夫と改善を行っていく。
3	職員の資質向上を図るための幅広い研修を受けることができる。	自分のタイミングでいつでも見ることができる動画研修や子どもに関わること、情報セキュリティ、職員同士のコミュニケーションなど幅広い内容を学ぶことができる。	研修で学んだことを活かせる機会を作ることで成功体験へと繋げていき、学ぶことへの意欲を高めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族等の参加できる研修の機会や保護者同士の交流の機会、きょうだい向けのイベントを設けることができなかった。	お子さまの特性を踏まえた関わり方に関して知れるように支援の場面の観察等の機会は提供したが、ペアレント・トレーニング等の研修の機会を設けることができなかった。また、保護者同士の交流の機会やきょうだいの方が参加できるイベントを開催することができなかった。	ペアレント・トレーニングは今後の課題として検討していく。保護者同士が交流できる機会をどのように開催したら良いかを検討していく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流やその他地域で他の子どもと活動する機会を頻りに設けることができなかったこと。	弊社の企業型主導保育園と「芋ほり」や「消防車救急車見学」の行事で交流をする機会を設けたが、交流する機会は少なかった。	地域の子どもと交流できる環境にあるため、機会を増やす検討をしていく。
3	非常災害の発生に備えた訓練を保護者の方に対して十分な報告ができていなかったこと。	日々の療育の様子が中心となり、非常災害訓練の発生に備えた訓練を実施しても十分な報告ができていなかった。また、ランダムな日にちで実施していることもあり参加できたお子様にばらつきがあった。	日々の報告の中で非常災害に備えた訓練を実施した場合は丁寧に保護者の方に報告をする。様々なお子様が参加できるように実施日時も検討していく。